

登熟期間の水管理について

出穂期以降の水管理の目的

出穂期以降の水管理は「良質米の生産」に加えて、「収穫時にコンインが走行しやすいためのほ場硬度を保つ」目的が加わります。

昨年は8月1日から2週間の日照時間が平年の180%あり、降雨がほとんど無かったため、落水期間が長かったほ場では乾きが早く、土壤にヒビが入って横根が切れました。

そのため、登熟後半に茎葉が枯れ上がり、登熟不足となり、粒が小さくなって減収となったほ場も見られました。

図1は上川農業試験場が3カ年の調査結果ですが、落水時期で収量が著しく異なることがわかります。

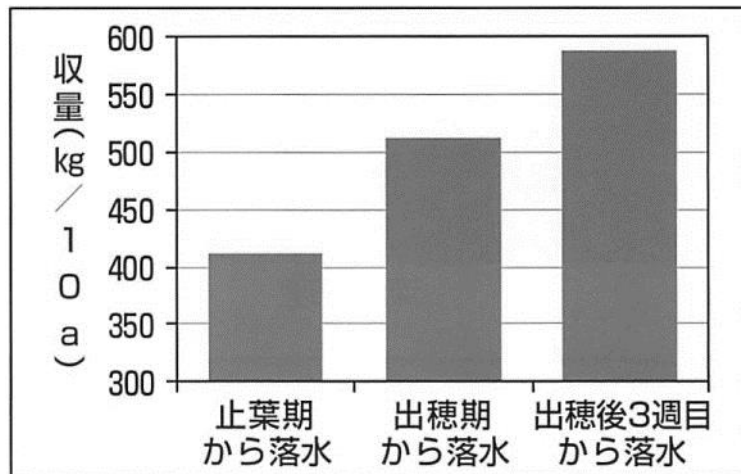


図1. 落水時期と収量の関係 (上川農業試験場 1998年~2000年 3カ年の平均)

表1. 土壤タイプと出穂後の水管理

排水性	土壤タイプ	水管理	適要
良好	砂壤土・褐色低地土	出穂後25日目に完全落水	1cmのヒビが入ってからは
不良	灰色低地土・グライ土・泥炭土	全ての穂が出てから落水	走り水で対応する。

排水良好田の注意

土壌が乾燥しすぎて根が切断された場合、水が吸えなくなり、粒厚の薄い粒が増加する（層米の増加）。

排水不良田の注意

収穫時の乾燥が十分でなく、ほ場を傷める。翌春のほ場が乾燥しにくい。

図2は排水の良好なほ場での管理の模式図です。

天候にもよりますが、排水不良田では、穂かがみ期まで、落水5日間・湛水2日間などで対応して、ほ場が適度な水分を保ちつつ、土壌の堅固化を図り、穂かがみ期から完全落水して、8月末までは走水で対応します。

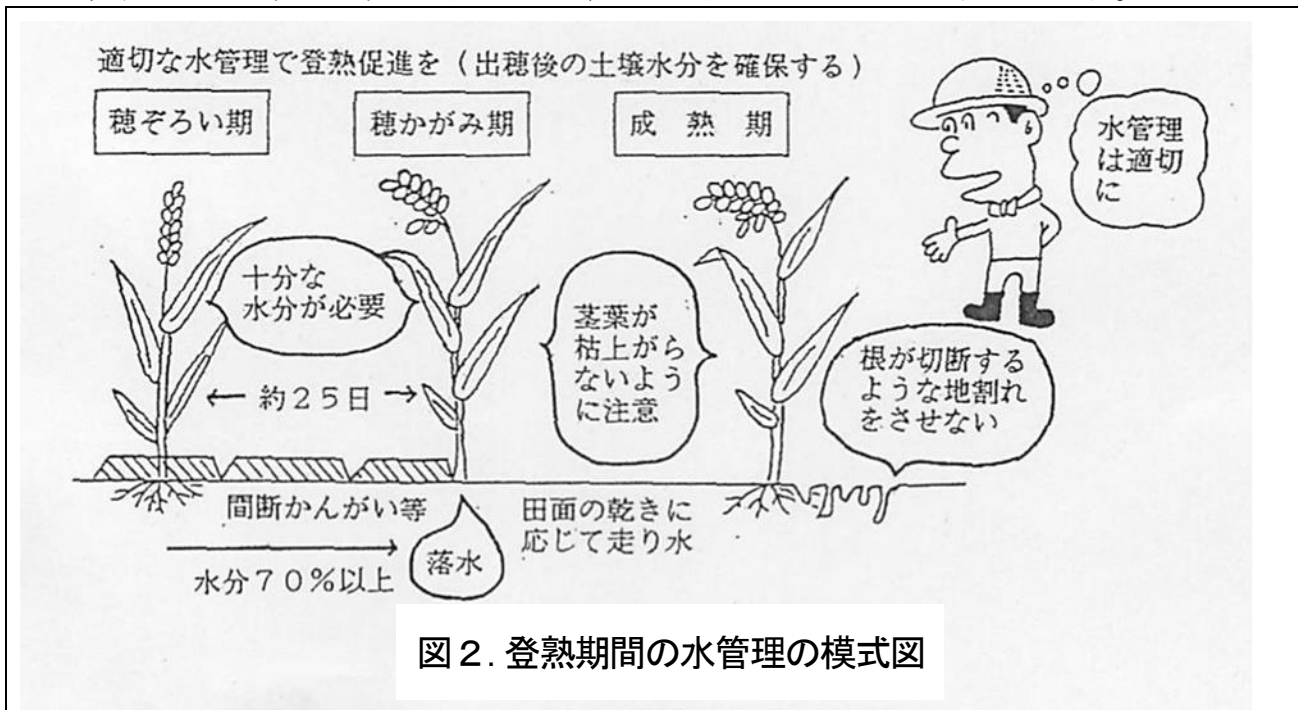


図3 足跡から分かる登熟期の適正土壌水分

畦際に1 cm 程度のヒビが入る頃が入水の目安です。

粘質の強い土壌では、ヒビが入ってから短期間で大きくなる傾向があるので、細心の注意が必要です。